旅の思い出を印象づけるおすすめばかりの逸品。

青森のおみやげ

青森市観光キャラクター
あぷたん

青森りんご

青森市の中でりんご栽培が盛んな地域は浪岡地区で、市内全体の約95％の生産量を占めています。市内で主に作られている品種は、「ふじ（収穫時期 11 月上旬）」で全収穫量の 50％ 以上を占めており、それ以外でも「ジョナゴールド（収穫時期 10 月中〜下旬）」、「王林（収穫時期 11 月上旬）」などを生産しています。その他、さまざまな品種が 8 月〜11 月にかけて収穫・販売されており、時期によって食感・風味等が異なりますので、色々食べ比べて自分の好きな品種を探してみてはいかがですか。青森駅前や道の駅「なみおか」アップルヒル等で販売しています。

くじら餅

「久慈良餅（くじらもち）」は、魚の鯨とは全く関係がなく、「いく久しく慈しまれる良い餅」という意味からこの名が付きました。もともと京都のお菓子で、北前船で青森に伝えられたとされ、浅虫の久慈良餅は、米の粉、小豆、砂糖にクルミを混ぜて蒸し上げるのが特徴。クルミの香ばしさと控えめな甘さが長い人気の秘密です。浅虫の久慈良餅店や旅館のお土産コーナー、道の駅ゆ〜さ浅虫でも取り扱っています。

おおもりナマコPRキャラクター
ナマリン・リットル

なまこ商品

青森県はナマコの水揚が全国第 2 位のナマコの産地で、青森の家庭では正月をはじめ寒い時期には酢の物などで食卓に並びます。ナマコの関連商品が続々と商品化され、加工食品はもちろんのこと、可愛いナマコのキャラクターをデザインしたものや、ナマコエキスを配合した石鹸など、種類は豊富です。アスパム、アイモリー等で取り扱っています。

青森市観光キャラクター
ほたてん

陸奥湾産活ホタテ

津軽半島、下北半島に囲まれた陸奥湾は、八甲田山系のブナ林から雪解け水が流れ込み、ミネラル成分がたっぷり。そのため、陸奥湾で育つ青森ホタテは、甘みがぎゅっと凝縮し、貝柱は弾力性がある食感。アウガ、青森魚菜センター（古川市場）、アスパム等で販売しています。

あおもりカシス

青森市は日本一のカシス生産地です。あおもりカシスは一粒一粒丁寧に手摘みで収穫するなど、生産者が丹精こめて育てています。商品はジャムやケーキ、ジュース、リキュールなどバラエティーに富んでいて、多くの皆様に喜ばれています。アイモリー、新青森駅、アスパム等で取り扱っています。

りんご加工品

青森りんごの収穫量は、およそ 45 万トン。そのうち約 15％が加工品に使われています。ジュースはもちろん、りんごが丸ごと入ったアップルパイやジャム、果肉入りケーキなど、りんごの里のお土産として喜ばれるものばかりです。新青森駅・青森駅・アスパム・アイモリー等で取り扱っています。

青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」内にある青森ふるさとショップ。

〈ねぶたの家 ワ・ラッセ内〉

＼アイ・ラブ・アオモリ／
青森ふるさとショップ
アイモリー

ねぶた関連商品やねぶた師による制作品をはじめ、農林水産品や加工品、民工芸品など、青森市の伝統、文化を象徴するお土産品の数々がここに集まっています。

http://www.aomoricity-bussan.or.jp ☎017-752-6[illegible]

青森市観光キャラクター
あぷたん

地場セレクト
青森県観光物産館アスパム

青森県の産業、観光、物産、郷土芸能など、青森をまるごと紹介している観光物産館。館内には、観光総合案内所や 360 度のマルチスクリーンによるパノラマ映画や展望台などがあり、一年中、青森の祭りや四季に出会うことができます。他にも、地場産品を販売するセレクトショップ、とれたてのホタテや農産物、工芸品など、青森のすべてが一堂に揃っています。

詳しくは16ページをご参照ください。

土産を楽しむ

あおもりの四季彩祭

伝統の技に北国青森の奥深さを知る

青森ならではの風土が生み出し、先人達から受け継いだ数々の手法。細部にわたって職人達のこだわりが感じられる作品の一つひとつは、創り上げる人の情熱と愛情、そして温もりを感じさせます。

じょっぱりの心と魂がここにある

津軽びいどろ

紀元前一世紀前頃から受け継がれてきた「宙吹き」という技法を用いて作られるガラス工芸品。もともと、陸奥湾周辺で作られていた漁業用の浮き玉の製法を応用したもので、当初は、材料にしていた津軽半島・七里ケ浜の砂が醸し出す、独特な薄緑の風合いが、懐かしさを感じさせると評判が高まりました。その後、少しでも多くの人に愛されたいという職人の想いによって、今日のような色彩豊かな製品へと姿を変えました。新青森駅・青森駅・アスパム等で取り扱っています。

善知鳥彫ダルマ

その昔、青森に生息していた「善知鳥（うとう）」という鳥にちなんで名付けられた工芸品。青森県の文化振興に功績のあった今克巳氏が、大正10年から彫り始めたもので、樹木の自然な割れに沿って彫られているため、顔付き、体型など、どれ一つとして同じものがありません。痩身の深紅の衣に包まれた独特な風貌が美しい一刀彫です。

[illegible] ☎017-738-[illegible]

ねぶたハネト人形

日本を代表する祭りでもある青森市の伝統的な火祭り「青森ねぶた祭」。そのねぶたの前を跳ねる踊人（ハネト）の躍動する姿をかたどった「ねぶたハネト人形」は、本物のい草や浴衣地を使用し、頭の笠から足先まで一体ずつ手作業で制作。今にも動き出しそうな表情、しなやかなポーズが特徴的。アイモリー（ワ・ラッセ内）、新町商店街の取扱い店等で販売しています。

津軽裂織

江戸中期以降、綿を生産できなかった雪国では、北前船が運んでくる暖かい綿が貴重なものだったため、着古すと、その布を裂き、横糸に麻を使用し、横糸には裂いた布と糸を用いました。津軽ではこの「裂織」をサクリといい、当時は、漁師や農民の仕事着や日常着として作られたため、少しでも薄く柔らかく仕上がるように横糸を布と糸を交互に織り込むといった独自の技法で織られました。現在では、コートやバッグなど様々なものに応用され、その味わいある風合いと色合いが魅力となっています。アイモリー（ワ・ラッセ内）、県立美術館、A-FACTORY等で取り扱っています。